



平和統一 NEWS



FPU兵庫
機関紙
第113号

F P U 兵庫
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通 7-1-2
ネオアージュ神戸元町 1001号
TEL. 078-360-0757 FAX. 078-367-4323
HP : <http://fpuhg.main.jp> / E-mail: hyougo-2017@fpuhg.main.jp

発行 FPU兵庫
発行人 文聖純
2018年1月1日

2017年の忘年会がFPU兵庫と賢仁会の主催で開催されました。

例年以上の寒波の中を初冬に向かって季節がうつろい行く中で、2017年に哀惜を込めての忘年会がFPU兵庫主催の下「賢仁会」「韓国婦人会」等の諸グループの参加で開催されました。

冒頭に、本紙に投稿され、大会・行事には必ず参加され、FPUに協力して下さっていた申日東氏の霊に対して黙とうを捧げ、故人の写真と共に参加された夫人が故人のFPUへの思いと、感謝の気持ちを述べられました。そして、今後主人に変わって大会・行事に参加しますと語られました。

そして開会宣言の後、最初に文聖純会長代行が、平和統一聯合の使命感に熱く期待を寄せられ、駐神戸大韓民国総領事との友好親善のかかわりや「在日」の人々との祖国訪問のことなどを話されました。次に、大阪から駆けつけて来てくださった曹按壽大阪事務局長が激励の辞を述べられました。次に



乾杯の音頭を取られた、沈在明元民団阪神支部支団長は祖国訪問のみぎり、東海(日本海)で見た北朝鮮の潜水艦の座礁した痛ましい残骸の



姿を南北の平和への統一と明るい未来を信じてやまないと語られたのが印象的でした。FPU兵庫にはすっかり定着している恒例の忘年会の風物詩としての、文会長代行と曹小煥副会長(京都臨済宗東福寺雲水)とのケーキカットが行われました。これは12月23日の日本国天皇と同年、月、日はおろか同時刻に誕生した2人への祝福でもありました。会場には在日1世2世を中心に民団系、総連系の人々の姿があり、共通の話題に歓談のひと時が流れました。やがて各自の、のど自慢の競合となりました。在日の歌う故郷の詩は甘く、メロディーはほろ苦く感傷的で青春の追憶と共に忘れえぬ思い出の1ページとなりました。最後に全員が

手を取り合って「統一の歌」を合唱し、曹小煥副会長が祖国の平和的統一を願っての億万歳三唱の音頭をとり、FPU兵庫の忘年会が終了しました。

2017年12月10日(日)、第12回韓国語弁論大会が大阪家庭教会で開催されました。

晩秋から初冬へと季節がいつの間にか移り、寒くなった中、第8地区成和子女部(部長：河本良子)主催と訓民正音グローバル協会後援で開催されました。東京から成和子女部(部長：斎藤安正)が参加された中、最初に小学生たちによるブラスバンド演奏で出演者たちに力を与えてくれました。斎藤部長は激励の辞で本人が留学時代、韓国での経験を語りながら「他の国の言葉を知ること、相手の文化と風習、心情を理解することになり、幅広いグローバル人材になるので熱心に学んでください。そして何より文総裁のみ言を理解するのに深い知識を得るので熱心に学びましょう」と強調し励ましてくださいました。



大会は初級のBチーム(11名)と中級のAチーム

(9名)が参加し、その間練習した韓国語を熱心に大きな声で弁論大会らしい姿を見せてくれました。

最後に総括として曹按壽審査委員長が「1年間、家で熱心に学び、そして見守って下さった父母様、教えてくださった先生たちに感謝し、みんな自信を持って最後まで一生懸命やっていました。ちょっと願うのであれば、もっとジェスチャーを多く入れたらいい」と総括しました。

大会のB部門(初級)の優秀賞は3名で船越谷 昇(6年生)：神様の事を考えて、朴 洪 想(5年生)：ぼくの家族、崔 志 熊(5年生)：ぼくの兄弟、A部門(中級)の優秀賞は、中田 朝優里(5年生)：神様の姿(訓民正音グローバル賞)、寺西 陽花(6年生)：

将来の夢(保育士)、李 苑 善(5年生)：私の家族、以上の6名がそれぞれ、受賞しました。最後に賞と景品、特に韓国婦人会姜信愛会長等の心からのプレゼントがあり、意義ある大会でした。

2017年12月7日(木)神戸学生青年センターで「父の証した記憶をたどって」の講演会がありました。

神戸、南京を結ぶ会の主催で山本敏雄鯖江市会議員の講演で、父・武さんが1937年9月から39年6月まで日本軍兵士として中国に派遣され、戦後、当時の日記をもとに回顧録を書き1984年70才で亡くなられた。

回顧録は1985年「一兵士の従軍記録」として自主出版された。

南京大虐殺から80年になる今年12月NHKで上映されたドキュメンタリーを上映しながら兵士が戦争の中で人が変わっていく姿を生々しく苦悩を語ってくれました。温厚な人柄が一変し「女も子供も殺す」「殺人をした後は、かえって飯がうまい」と一変させる。人を憎悪の連鎖に突き落とすのが戦争、子供たちに経験させたくないと言っていた父の体験を語られた。



2017年12月24日(日)南京大虐殺80年の今、米国ドキュメンタリー「南京」を観る会が神戸学生青年センターホールでありました。

神戸学生青年センター神戸・南京を結ぶ会、日中平和未来架け橋の会が共同主催したことで林伯耀(日中民衆交流史研究者)講師の説明を入れながらの映像の内容でした。

アメリカ合衆国制作で2007年に公開された南京事件に関するドキュメンタリー映画として1937年末に旧日本軍が南京を占領した様子が西洋人の視点から描かれていた。映像は生存者の証言を集めた内容として美しい南京の町にますます市民たちの犠牲が増えていって虐殺される姿が、戦争の残虐性をひしひしと感じさせる映像と説明でした。



老慾

홍일식

전고려대학교 총장.
선학평화상 위원장

매월당 (梅月堂) 김 시습 (金時習) 은 세조가 조카 단종을 내쫓고 임금 자리를 빼앗는 불의를 저지르자, 세상에 의(義) 없음을 탄식하고, 통곡하다가 입산하여 중이 되어 버렸다. 그는 이따금씩 다 찌그러진 갓과 남루한 도포에 새끼띠를 두른 기이한 차림으로 서울에 나타나곤 하였다. 옛날에 동문 수학하였으며, 지금은 세조 밑에서 고관 대작의 벼슬을 하고 있는 그의 친구들은 모두 마음 속으로 그를 두려워하지 않을 수 없었다. 사람에게는 누구나 양심이란 것이 있게 마련이라, 그들은 재주나 도량에 있어서는 말할 것도 없고 의리에 있어서도 김 시습이 자기들 보다 한발 앞선 것을 아는 까닭에 미친 사람같은 그를 차마 소홀히 대하지 못하였다. 당대의 유명한 재상으로 손꼽히는 사람으로 서 거정 (徐居正)이 있었다. 그가 또한 김 시습과 잘 아는 사이이다. 하루는 찾아온 김 시습 앞에 그림 한 폭을 내 보이면서 여기다 몇 자 시제 (詩題)를 써 달라고 했다. 김 시습이 이 그림을 내려다 보니 옛날 중국의 강태공이 출세하기 전, 야인 시절 위천 (渭川) 에서 한가로이 낚시질을 하고 있는 모습을 그린 그림이었다. 그는 주저없이 붓을 들어 먹을 탁 찍더니, 단숨에 7 언 절귀 한 수를 써내려 갔다.

老慾

洪 一植

前 高麗大学校 総長
鮮鶴平和賞の選考委員長

梅月堂 金時習は、世祖が甥の端宗 (단종) 을追い出し、王様の座を奪う不義を行ったことに対し、世の中に義なしと嘆いて、号泣してから入山してお坊さんになってしまった。彼は時折り、変形したボロボロの塗布子帯を巻いた奇異な姿で、ソウルに現れたりした。昔、一緒に同門で修学し、今では世祖の下で高官の官職をしている彼の友人は、心の中で彼を恐れていた。人には誰でも良心というものがあるはずだと。彼らの芸や度量においては言うまでもなく、義理においても、金時習が自分たちよりも一歩先である事を知っているわけで、狂気染みた人間のような彼のことだから、とてもおろそかに扱う事はできなかった。当代の有名な宰相に数えられる人として、徐居正が居た。彼はまた、金時習をよく知っている間柄だ。ある日、訪ねてきた金時習の前に画像一幅を見せ、ここにいくつかの詩題を書いてくださいと言った。金時習がこの絵を見下ろすと、昔の中国の釣り人が出世する前、野人の時代に渭川でのんびり採取をしている様子を描いた絵だった。彼は躊躇せず筆を持って一気に四言絶句を書き出した。

雨風蕭蕭拂釣磯
渭川魚鳥學忘機
如何老作鷹揚將
空使夷齊餓採薇

우리말로 옮기면 대개 이렇다.

"비바람 뿌리는 저 물가 낚시터에. 위천의 물고기 새들, 너를 배워 제법 세상 일 잊었더니, 어찌 자고 늘그막에 난다 긴다 장수되어 공연히 백이, 숙제 고사리 캐다 굶어 죽게 하였는가?" 옆에서 지켜 보던 서거정의 낮빛이 창백해졌다. 그럴 수 밖에 없는 것이 이 글에 담긴 뜻을 풀어 보면, 다음과 같다. 강태공은 옛날 주(周)나라 은사(隱士)로서 나이 칠십이 넘어서 문왕(文王)의 부름을 받고 나가 그의 스승이 되었으며, 후일 무왕(武王)을 도와 은(殷)나라 주왕(紂王)을 토벌하는 데 큰 공을 세운 군사(軍師)요 재상이었다. 이 강태공이 무왕을 모시고 온 나라를 치러 출전할 때, 같은 은나라의 제후 고죽군(孤竹君)의 아들인 백이와 숙제 형제는 무왕의 말고삐를 붙들고 눈물을 흘리면서 그 옳지 않음을 간(諫)하였다. 제후로서 천자(天子)를 범하는 것은 의롭지 못한 일 이요 곧 신하로서 임금에 배반하는 것이니 반역이라는 것이다. 화가 난 무왕이 칼을 빼어 들고 그들 형제를 내려 치려고 할 때, 강태공이 옆에서 만류해서 죽음은 면했다. 그 후 무왕과 강태공의 혁명은 마침내 성공을 하여 세상은 주(周)나라 천하가 되었다. 그러나 백이 숙제 형제는 의롭지 못한 주나라 곡식을 먹을 수 없다하여 수양산(首陽山)에 들어가 평생 고사리만 뜯어 먹다가 죽었다.

雨風蕭蕭拂釣磯
渭川魚鳥學忘機
如何老作鷹揚將
空使夷齊餓採薇

我が国の言葉に訳したら、だいたいこのようだ。

「雨風ばらつくあの水辺の釣り場に、渭川の魚鳥たちよ、あなたに学んでわりあい世の中のことを忘れていたところで、どうして老いてずば抜けて大将になって公然と伯夷、淑済兄弟をワラビを採って食させ餓死させたのか? 横から見ていた徐居正の顔色が青ざめた。そうするしかないのがこの詩題に含まれた意味を解いてみると、次の通りである。姜太公(강태공)は昔、周の国の隱士として年齢七十を越えて文王の召しを受けて彼の師匠になっており、後日、武王を支援するには殷の国の紂王を討伐するために大きな功績を残した軍師であり宰相であった。この姜太公(강태공)が武王に仕え出戦に行くときに、同じ殷の諸侯の孤竹君の息子である伯夷、淑済兄弟は武王の馬の手綱を握り、涙を流しながら、その正しくない行為を諫言した。諸侯として天子を犯すことは、義のないことであり、臣下として王様を裏切るものだから反逆だという。怒った武王が剣を抜いて、かれら兄弟を打ち殺そうとすると、姜太公(강태공)が横で引き止めたので死を免れた。その後、武王と姜太公(강태공)の革命は、最終的に成功をして、世界は周の国の天下となった。しかし、伯夷、淑済の兄弟は不義である周の国の穀物を食べることができないので首陽山に入って一生ワラビだけ採って食べて死んだ。

이러한 중국의 고사 (古事)를 들어 지금 김 시습은 세조와 서 거정을 마치 그 옛날 무왕과 강태공에 비유하고, 자기 자신은 백이·숙제에 비유하여 자기가 오늘날 미친 사람처럼 이렇게 살아갈 수밖에 없는 것이 바로 너 같은 사람 때문이라는 것을 기막히게 풍자하고 있는 것이다. 극단의 현실주의와 극단의 이상주의의 대결이었다. 더구나 그 거점은 조선조 개국 공신인 양촌 (陽村) 권근 (權近)의 외손으로, 6 조 판서를 고루 거친 당대의 실권자인 데다, 김 시습보다 나이가 15 세나 위인 연장자였다. 그 앞에서 이처럼 대담 할 수 있었던 김 시습의 기개야말로 대단한 것이 아닐 수 없다.

그러나 원래 풍자란 부정 (否定)을 위한 부정이 아니라 긍정을 위한 부정이라는 데에 그 값이 있는 법이다. 그러므로 대결은 대결이로되 서로가 원수지을 마음은 애당초 없는 것이니 서로를 용납 할 수 있었던 것이리라. 서 거정이 얼른 낯빛을 고치고는 "허허! 이거 나를 별주는 소리로군!"했다. 김 시습의 당당한 기개도 훌륭 하거니와 서 거정의 아량 또한 너그러웠다. "논어 (論語)"에 이르기를 군자는 화 (和) 하되 동 (動)하지는 않으나, 소인은 동하되 화하지는 못한다

(君子和而不同、小人同而不和) 고 했으니, 이 또한 군자의 사귄이라 가히 본받을 만하지 않은가?

(1984, 11, "한국인")

このような中国の古事を含めて今、金時習は世祖と徐居正をまるで昔、武王と姜太公 (강태공)에例えて、自分自身は、伯夷、淑済に例えて、自分が今日、狂人のように生きていくしかないのは、君のような人がいるからだと驚くほど風刺している。極端な現実主義と極端な理想主義の対決だった。しかもその拠点は、朝鮮国功臣である陽村 權近の外孫で、6 曹伴書 (各省の大臣) を等しく経た当代の実権者であり、金時習より年齢が 15 才位先輩であった。その前に、このように大胆なことをすることができた金時習の気概こそすごいことではないか。

しかし、元々諷刺と言うのは否定の為の否定ではなく、肯定のための否定というところにその価値があるものだ。だから対決は対決だとはいえお互いに怨讐の芽生える心は始めからないことだからお互いを受け入れることができることである。徐居正がすぐ顔色を直してからは「ハハー! これは私に罰を与える本音だな!」といった。

金時習の堂々たる意気も立派だが徐居正の雅量も寛大だった。

『論語』が言うには、君子は和するが同はしないが、小人は同するが和することはできない (君子和而不同 小人同而不和) で言ったから、これも君子の付き合いなのでおもに模範とするに値しないか?

(1984, 11, 『韓国人』)

2018年1月1日



새해 福 많이
받으세요!

FPU兵庫会長代行 文聖純

今年 2018年 元旦、天歴6年を迎えました。

昨年は韓国において苦しい年でもありました。2018年戊戌年

(무술년)、戊の年は、植物が育ち花が咲き、実を結ぶ年だと言われていま
す。今年は韓国において平昌オリンピックが開催されます。このような年
に韓国と日本、相互理解を深めて親善企画を立てて意義ある飛躍の年にな
るように、相対国に持っている相対疲れ感を解いて安定した交流基盤を作
って、在日と共に文鮮明ご夫妻が願っている在日に和合、祖国に統一、統
一の上に平和、平和の上に繁栄が来るように会員と一つになって歩いてい
きたいと思います。会員の皆様の家庭に日ざしがいつもよりもっと明るく、
沢山の実が実ることを切に祈ります。



FPU兵庫 副会長 曹小煥

2018年新年の挨拶

『月刊・平和統一NEWS』に憶う

2018年を迎えた。もの心がついてより現在まで、誰にも一度も、決して「おめでたい」といった表現を、極貧の『在日』の生活の中から、そして日帝より民族の文化を根こそぎ奪われた悲哀の民族の歴史を知るだけに、その言葉が嫌いで使わなかったのだが今年、少しばかり使っても良いのではないかと思っている。それは在日にとって大きな意義を持つ平和交流と文化を伝え、あまつさえ怨讐までを遠い彼方へ追いやった「朝鮮通信使」がユネスコ（国連教育科学文化機関）より、重要な歴史文書などの存在を目的とする「世界の記憶」（世界記憶遺産）に、日本と韓国の民間団体（両国の政府は何もしなかった。民間団体の中で最も力を注いだのは文鮮明総裁の創設による平和統一連合であった。）等が申請した「朝鮮通信使に関する記録」を世界遺産に登録したと発表したことであった。昨年末にこのニュースを新聞で読み、テレビで映像を観た時は嬉しくて思わず手の痛むまで拍手した。長生きはするものだとつくづく思ったものである。

朝鮮通信使の記録は、17世紀から19世紀に江戸幕府の招きで12回、朝鮮半島から日本へ派遣された外交使節団に関する資料である。外交文書や旅程の記録を通信使と日本人がそれぞれ交換したり、見せ合ったりした詩や書画などである。何よりも嬉しく感動させられたのは当時の両国の平和的な関係の構築や相互理解、徹底した一般民衆に至る迄の尊敬の眼差しを受けたことであった。真の文化交流が大きく開花していたのである。

2018年を迎えるにあたり、私たちの精神的拠り所としての『月刊・平和統一NEWS』が「朝鮮通信使」のように、日本、韓国、朝鮮の文化的架け橋となり、祖国統一を一日千秋の想いで渴望してきたすべての同胞のひたすらな念願に合致するものと確信しつつ多くの人が本紙の存在を知ることが願うものである。

阪神支部長 尾道 宗継

セヘ ポク マニ パドウセヨ。

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、平和統一聯合の共同創設者であられる韓鶴子総裁が一万名大会を日本四ヶ所にて開催される恩恵がありました。このようにして日韓交流を自ら推進していかれました。

私達も日本と韓国の愛和合を願うものでございます。そうすることで韓半島の統一も見えてくるのではないのでしょうか。

今年も会員の皆様と共に「在日の和合」と「祖国の統一」を願って歩み行きたいと思えますので、どうぞ宜しくお願い致します。

明石支部長 村山恵宥

新年明けましておめでとうございます！

自覚を取り戻し、愛の発光体と成って、正午定着の位置に立てば、陰の生じる道理がない！このメッセージを個人の年頭標語として、新しい一年の出発と致します！

恭賀新年



西宮支部長 廣瀬純子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、公私にわたり波乱を含んだ試練の年でしたが、新たな2018年を迎えて、希望と安堵を感じます。

平昌五輪の開催を祝うとともに、輝かしい一年となることを願っています。今年も宜しくお願い致します。

尼崎支部長 宮川清司

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」『方丈記』鴨長明の書き出しですが、月日が過ぎるのは速いものです。新しい1年今年こそは時の流れに負けずに過ごしたいものです。今年もよろしくお願い致します。

日本家系研究会 与那嶺東雲
謹賀新年

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
一日も早く北の子供たちに食料を届けたい
です。

解放！解放！解放！
今年もよろしくお願いいたします。

FPU兵庫 渉外部長 金豊鎬

明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。
今年も達成と喜びが多いことを願って。

在日平和統一婦人会兵庫県支会韓静暎

明けましておめでとございます。

昨年は16地区から8地区になり個人的にも兵庫韓国婦人会長になって変化が多い年でした。今年はサムルノリの練習を重ねて披露させて頂けるよう頑張ります。今年も宜しくお願ひ致します。



福来門笑



兵庫支部 支部一同

明けましておめでとございます。

昨年は、北という字が選ばれましたが、今年は穏やかな年になることを願っております。

家庭の平和も国が安定していないといけませんし、家庭が不安定だと国をも揺るがすことにもなります。今年は、韓国と日本が新しい体制のもと一つになって、神韓国、神日本で1年間前進して行けることを願っております。

今年も宜しくお願ひ致します。

加古川支部 支部長 市橋正成

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はこれまでになく、北朝鮮とアメリカの対立が一層、深まり東北アジアの情勢はますます、混沌としてきていますが、私達には平和の思想があります。日本は拉致問題等、難しい問題もありますが、傲慢にならず、謙虚になり平和の橋渡しができるようにリーダーシップを発揮して欲しいと思います。今年一年の世界の平和と皆様が健康で幸多き一年となります事を祈りつつ、新年の挨拶とさせていただきます。今年一年よろしくお願いいたします。

尼崎支部長 石巻正和

新年明けましておめでとございます。

厳しい韓半島情勢ではありますが、情勢が好転し、韓半島が平和統一されることを祈願いたします。

FPUの会員皆様におかれましても良き年であられますように。

瑞祥新春

戌年

姫路支部 英裕司 横山百合子

新年おめでとございます。

若い女子中高生の間ではK・POPが大流行している。歌だけではなく韓国のファッションも大人気のようなだ。韓流ブームも一時の勢いがなくなつたと思っていたが、若者の間では健在だ。まだまだ捨てたものではない。

日韓の関係が改善され、ひとつになつていく今年一年になることを願っています。

FPU兵庫事務局長 福田秀樹

春風献上

2018年を迎えて、FPU兵庫は13期の後半の出發です。これからも、より充実した意義あるセミナー及び講演会を企画して、会員の皆様と共に南北の統一に向けた活動を続けていきたいと思えます。在日に「和合と共生」、祖国に「平和統一」、東北アジアに「繁栄」、世界に「平和」を！のローガンの下、より一層努力して参ります。皆様のご協力を宜しくお願いします。

交流の広場

韓国民話 前世の願い

阪神支部 支部長 尾道 宗継

新任の監司（カムサ）（観察使、朝鮮時代の正二品の位、各道の長官）が通り過ぎるのを知らせる楽の音がひととき高く鳴り響く中を行列は碑石通りを通過していた。平壤監司として赴任してから初めての管内巡察に出かけたユ・シムは馬上で胸をときめかせながら沿道に並んでいる農民と周辺の風景を眺めていた。初めて通る道なのでずらっと並んでいる碑石や老木がとても珍しく思われた。行列が大通りを抜けて小道に差し掛かった時、ユ・シムの口から思わずあっと嘆息が漏れ出した。あちこちに不揃いに並んでいる藁葺き屋根や道端の大きな木々の上にあるカササギの巣、そして丘の上に立っている古びた書堂（庶民の子弟に漢文を教えた私塾）……それらはユ・シムの記憶にまざまざと刻み込まれている風景だった。

「不思議だ、実に不思議だ」官庁に戻ってきたユ・シムはその日見た風景が目の前にちらちらして夜の十二時を過ぎて寝付くことができなかった。十月十五日、その日はユ・シムの誕生日でもあった。幼い頃から誕生日の夜はいつもどこかに行って法事の食事をしてくる夢を見た。果てしなく夢の中を彷徨っていくと古びた藁葺きの家が現れ、ユ・シムが部屋の中に入っていく準備されている法事の食事を食べていると、一人の老婆が法事の祭壇の前で心を込めて祈っている様子が見えたりもした。「そうだ！」ユ・シムははたと膝を打った。昼見た風景は彼が夢の中で見た通りの様子と関係があると気づいたユ・シムは大急ぎで外に飛び出していった。

「あなた、こんな夜更けにどこへ行かれるのですか？」夫人が声をかけた時、すでに彼は門の外に去った後だった。

ユ・シムは屋間見た碑石通りを横切って藁葺きの家が並んでいる小道に沿って歩いた。道端の大きな木々の下を通り過ぎて夢で見た道に沿って歩いていくと、古びた藁葺きの家の前に出た。部屋の中では低くすすり泣く声が聞こえてきた。

「ごめんなさい」ユ・シムが家の前で挨拶をすると、部屋の戸が開いて老婆が顔を突き出した。まさしく夢の中で見た老婆だった。

「通りすがりの旅人ですが、一晩泊めていただけないでしょうか？」

「部屋が余りにもみすぼらしくて……」老婆は心配しながら部屋の中に案内してくれた。部屋の中にしつらえられている法事の祭壇を見て、ユ・シムは驚きを隠せなかった。「見たところ法事の日ようですが……」ユ・シムが話しかけると、老婆は幼い年で亡くなった息子の法事だといいつつため息をついた。老婆は若くして夫を亡くし、幼い息子タルイといっしょに暮らしていた。知的な好奇心が人一倍強いタルイは書堂の周辺で遊ぶのが好きで、両班家の子弟たちが勉強しているのを肩越しに見ただけで『千字文』を覚えてしまうくらい聡明な子供だった。

ある日、平壤監司の赴任行列を見た後、タルイは大人になると平壤監司になって親孝行すると口癖のように話したという。その日からタルイは両班家の子弟たちが勉強している書堂の窓の外で跪いて座り、雪が降ろうと雨が降ろうと一日も抜けることなく見よう見まねで勉強した。石ころで地面に字を書き、使い古した煤の粉をつけて手のひらに字を書いたりした。

ある日、書堂の先生がタルイを部屋の中に呼びいれ、書堂の弟子たちと学力を競わせた。驚いたことにタルイの実力は書堂で学ぶ両班の子供たちよりはるかに勝れていた。感心した書堂の先生がタルイに正式に書堂で勉強できるように配慮してくれたが、屈辱を受けた書堂の弟子たちの憤りは一通りではなかった。そして書堂の路地でタルイを待ち伏せして叩きのめしながら、卑しい常民が勉強して何になると嘲り笑った。タルイはやっと分かった。常民はどんなに勉強しても官職に就くことができない上に、平壤監司にもなれないという事実を……。

そんなことがあった日からタルイは病気がちになっていたが、とうとう寝込んでしまった。母親の涙ぐましい看病も傷ついたタルイの心を癒すことができなかった。どんな薬も効き目がなかった。タルイはそうして亡くなってしまったのである。冷たくなった息子の死体を抱きしめて母親は、慟哭しながら、どうぞ息子を両班家の子供に生まれて変わるようにしてくださいと祈った。その日の夜、夢に息子のタルイが現れて『お母さんの願いどおり漢陽のユ氏家に生まれることになりました』と言いながら明るく笑ったのです。

老婆は息が詰まったのか口を閉ざして涙を拭いた。ユ氏は息も止まる思いだった。

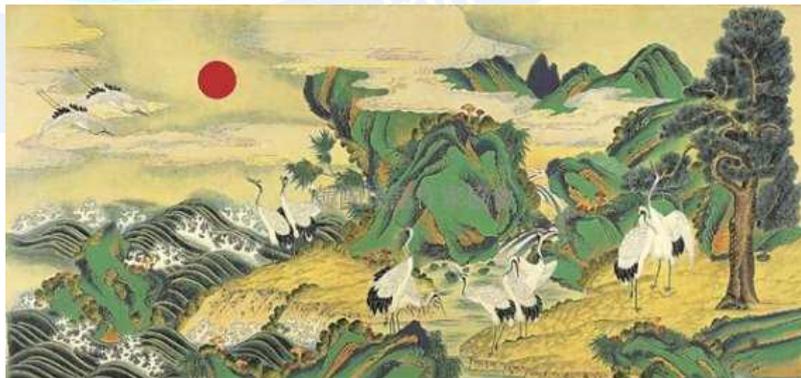
「漢陽のユ氏家と言いましたか？」

「はい、それが本当ならその子は今三十歳になっているでしょうに……」

その言葉を聞くやいなや、ユ・シムは老婆の前にうつぶせてすすり泣いた。「母上……！」「えっ、何とおっしゃいましたか？母上とは……」老婆はいぶかしげにユ・シムを眺めた。

「母上の息子タルイはまさに私です。物心がついてから誕生日の夜は見慣れないところに行って法事の食事を食べる夢を見ました。今日やっと夢で見た道を通ってこのように母上を訪ねてまいりました。母上、平壤監司の挨拶を受けてください」

ユ・シムが深く頭を下げて礼をすると老婆は感激の涙を流しながら息子の手をしっかりと握った。三十年ぶりに前世の母親と邂逅したユ・シムは、その後孝行を尽くし老婆に仕えた。ユ・シムは平壤監司になって親孝行をすると言っていた前世の約束を後世になって実践したわけである。



申 日東 (ツ イツ) の履歴 (歴史とイデオロギーの狭間で生きた) (20)

申 日 東 (元章) 民族学校教職歴22年

この自分史は日東自らがアルツハイマーと宣告された後、殆ど盲目(0.02)で薄れ行く記憶を辿りつつ、パソコンの音声を頼りに書き下ろした文です。書き漏らしたことも多く、また重複した部分も沢山ありますが、短編集を読む感じで読んで下さい。

初志の、“貧しい生徒には出来るかぎりの手厚い愛のこもった指導”もできました。その中の一人に母子家庭の貧しい四年生で利巧で優しい李才燦という生徒がいました。才燦ちゃんは、失業対策に行く母の手助けで炊事・洗濯や弟妹の世話をする可愛い生徒でした。

五～六年後、東神戸初級学校で勤務している時、昔、立花で教えていた李良子が朝高帰りに灘駅で途中下車して日東に、「李才燦さんが重い白血病で入院しています。だが貧しくて骨髓移植も施せず全身がむくみ食事も摂れない末期的状態に陥り、死ぬまでに申日東先生に一目会いたいと訴えて泣いています」と、同級生だった李良子が訪れて言いました。次の日曜日、見舞いに行くと痩せ細って全身がむくんでいました。五年の間、病中ながら少女に成長していました。才燦はむくんだ顔で涙を流しながら「ソンセンニン(先生)ありがとう」と言いながら、最後の力を振りしぼってベッドから上半身を起こし抱きついてきました。日東も可愛そうで、しばらく涙しながら「元気出せ、病気に負けたらあかん！」と背中を撫でながら勇気付け、ベッドに寝かせ色々な話を聞きました。才燦は病で中退した中学校の頃の教科書を枕もとに置いて読んでいました。どんなに学校へ行きたかっただろう！胸がつまりました。「私の手は薬師だ」(ネソニ・ヤッソニ、ヤッソニダ〜〜)と朝鮮式呪文をなえながら全身をくまなく、指一本一本まで撫でてあげました。「家族(母)が最後の神頼みで、近い内に、教会で神に祈りながら普通の食生活で働きながら病を治すことになりました」という話でした。日東がみても、もはや末期で手遅れだと思われましたが、せめて最後の望みを叶えてあげたくて、「今、何か欲しいものがあるか」と聞くと、「今一番欲しいものは先生の写真とラムネとバナナが食べたい」と言うので、一緒に来ていた李良子を使いやりラムネとバナナ三本を買って来させ一緒に食べました。

「写真は次に見舞いに来たときカメラで写真を一緒に撮りましょう。それまではこれをあげますと、大事に使っていた万年筆と名刺をあげて帰りました。数日後、天理市から「嬉しかったです。ありがとうございました。私は毎日神に祈りながら掃除をしています」と、日東があげた万年筆で書いたきれいなハングル文字の葉書が届きました。その後、ひと月もたたない内に教会の廊下で雑巾を手にしたまま失神して倒れていたそうです。立花の三反田町の自宅に帰り療養をすることになりました。ある日、自宅の布団の上で、日東あての書きかけの葉書とあげた万年筆をにぎりしめたまま絶命していたそうです。

数日後、李良子が東神戸初級学校へ立ち寄って涙ながら話してくれました。春休みが終わる頃、県本部の教育部から西神戸初級学校に転勤するよう辞令がありました。

西神戸で三年生を受け持っている、三学期の末に、また東神戸初級学校に行くようにと配置転換がありました。

東神戸ではIという先生が生徒に体罰を加えた事件がありました。その後、その生徒が肉腫という癌の一種の病気にかかり亡くなりました。

その生徒の父兄は、三宮でパチンコ屋四～五店と喫茶店エリーゼをも持つ大富豪で在日朝鮮人社会に発言力を持つ人でした。

体罰を加えたI先生が“クビ”になり、その後任に東神戸の教員に就任しました。その時はまだ、東神戸初級学校は生田区旗塚通の木造校舎でした。

生徒が増えて学校が狭くなったので神戸市と交渉した結果、国鉄(現JR)の灘駅の直ぐ南側にあった脇浜一丁目の公園を朝鮮学校の敷地として貸し出してくれることになりました。

今の脇浜一丁目に鉄筋校舎として落成しました。

それはそれは感激の一瞬でした。中央からも朝鮮総連の委員長や神戸の朝鮮人学校の父兄達が校庭いっぱい集まり、落成を祝い、飲めよ踊れよと夜の更けるまで喜びあいました。



雲水(くもみず)の行方や何処(いずく)なるらん (51)

～韓(から)くに雲水の旅・慶尚南道・密陽・昌寧を出立、世界遺産・海印寺へ～1

FPU 兵庫 副会長

元臨濟宗東福寺派 京都総本山東福寺 塔頭 即宗院 曹 小 煥

伽耶山・海印寺を何としてでも訪問したいとの思いは、学生時代からの長年の願望であった。そこには歴史と、朝鮮文化に触れる書物の影響があった。大学での先輩である井上靖著『風濤(ふうとう・かぜとなみ)』モンゴル制圧下の高麗王朝時代の朝鮮半島の状況を描写した小説を読んで、50年の歳月が流れた。その旅は文化遺産と、朝鮮民族である「在日」の一人としてのアイデンティティ(自分探し)模索の重要な出発点でもあった。

悠久として雲と水は行く……。洛東江支流の土堤でそのありさまをしばらく眺めている1人の旅の僧がいた。朝鮮半島南部の5月の微風は爽やかに肩を撫でて通り過ぎた。身なりと言えば、京都東福禅寺の大老師より引き継いだ180年目になるという綱代(あじろ)笠と錫杖のほか、寒々とした墨染めの法衣である。いたって見すばらしいが、豊かな頬をしていて、常にどこかに微笑みをふくみ、いやしげな様子がなかった。流れる雲と水を友として真っ直ぐに伸びた背筋は旅の僧の律儀な性格を物語っていた。数日前に新羅時代の創建である無住職の本尊のおわさぬ、うらぶれた古廃寺の大雄殿で野宿をしての一夜の宿を借りていたところを村人と出会い、村に案内されて食事などの歓迎を受けたばかりであった。小さな集落ではあったが大小の峠から峠を越えて到達した場所である。出会った村人の心温まる接待の数々。それは朝鮮民族の持つ独特の精神が築いてきた文化であり、日本ではほとんど見られない、まさしく天に蓄えられた財産であると思い知らされた。これが日本と異質の母国の風俗であり、習慣であった。

父の本貫を昌寧とし、母の故郷を密陽とする彼の僧としての修行の原点は「歩く座禅」にあった。そして大老師から訓育を受けて禅寺に長い年月を修行に明け暮れ経て来た。托鉢先で喜捨や善意に逢う時、彼は植民地化された母国の人々の苦難の歴史を思いやり、感謝せずにはいられなかった。母国の善き風俗と習慣が朝鮮半島の財産として失われてしまわないようにと、願わずにはいられなかった。

母が生まれ育った伽耶密陽から、父の故郷である伽耶昌寧へは北西へ約20kmである。そこから伽耶山海印寺(世界遺産)へは、北へ約40kmであった。父が青年時代に母が若かりし頃、古刹・海印寺へ訪れているかも知れないと思えば僧の足取りは軽かった。洛東江の土堤から村道に出ると「伽耶山国立公園入口まで10km」と書かれた道路標識板の前に出た。前方に1432mの伽耶山が優しいのか、厳しいのか夕陽に輝いて日本からやってきた彼を待ちかねたかの如く、そびえていた。3日前の朝、高霊の人々に再会を約して、のんびりと、途中2度もバス停留所の小屋で野宿をしている。テレビも電話も新聞もない世界である。明日の天気も気にならない。日の出1時間前と日の入り1時間後が1日の乗らない、泊まらないといった歩きの旅の修行の1日の節目の生活パターンであった。雨降りでも、雨宿りの場所さえあれば雨の音も快く聞こえた。雨が降り止むまで様々なことを考えるのが精神的に良いことだと思いつくのであった。例えば夕食をどうするか、朝食はと考えるのもいっさい、苦にならなかった。無ければ無いですぐに寝付く事が出来た。



翌朝、目覚めて歩いても、何時(いつ)も足取りも気持ちも軽いという芸の持ち主であった。これは少年時代に極めて貧しい家庭で育ったことに原因があるようだ。あまつさえ巨大寺院に入門したものの1950年代の禅寺は名ばかりで、目を向けるのとはばかられるような貧乏寺院であった。しかし、少年時代も青年時代も極貧生活のため命を落としてしまうということとはなかった。彼は山歩きを好んだ。山に入ると昨日までの歩いていた自分の心と、今日の自分の心が向き合っているのがよくわかるのであった。今生きる一瞬を大切にしたい心との葛藤であった。その答えは、野宿をする毎に、はっきりとした、生きていく自信として返ってくるというか、得られるのが分かった。野宿をするのが楽しく思えた。山がそこにあるから登るのであり、歩きの旅と野宿の旅は彼にとって禅への、人生への悟りへの第一歩でもあった。心が浄化され、風を感じ、目に染みる新緑の、田の蛙の合唱、土堤に咲く小さな草花に慰められた。みんな共に生きているのである。

(つづく)

考え得る最悪の終末シナリオ：ペドフィリア戦争 ペドフィリアがどれくらい恐ろしいものか？

京都大学名誉教授・FPU京都会長 渡辺 久義

私のよく見るNeonNettleというニュース・サイトの見出しには、“…Found Dead”（死体で見つかる）という言葉が、極端に目立っている。西洋医学を否定し、ホーリスティック医療を実践する医者がfound dead、ワクチンと自閉症の関連を公表した研究者がfound dead、Big Pharma（大製薬業界）の悪事を暴露した医者がfound dead、しかも「またしても」againという語がついている。これには、事故死という可能性もありうるが、ほとんどが暗殺であることは確実である。ひどいのは、すでに忘れられかけたラスベガス乱射事件の、首謀者にとって不都合な証言をする人々の、（この時点で）すでに9人がfound dead。これだけ簡単に、口封じのために、人を次々と殺さねばならない犯行者とは、どれほど狂った、しかし絶対的権力をもつ組織であろうか？

次々とより大きな事件を起こし、それを未解決のままにして、また次の大事件を起こすのは、大衆の注意を何かからそらすためであることは確実である。その者たちが、次にはトランプの暗殺と（最大の消しゴムとなりうる）第三次大戦をも計画している。

いったい何から目をそらし、何を消そうとしているのか？——それが国家規模の（SOTNが国を亡ぼす原因になるという）上層部のペドフィリアであることは間違いない。最も恐ろしい悪を、見かけ上は、より大きな（派手な）悪で塗りつぶすという算段であることは、「ピザゲイト」以来の、彼らの動きから明白である。子供への性犯罪は密室で行われるために見えないが、実はこれが、人間の犯しうる最も重大な犯罪である。

国家や社会を動かす者たちの、そのような犯罪は、サタン（の人間滅亡の意志）と結びついているという我々の仮説が、いよいよ明らかになった。レディ・ガガや、リアーナ、その他、何人かの芸能人の証言から、サタンの実在が感じ取れるだけでなく、法王フランシス自身が、サタンは空想の存在でなく実在し、「もやのような、diffuseな（漠然と取りとめのない）存在でなく、形をもった人間だ」（——だから、手ごたえのないイエスよりも信頼できる）と言っている。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171215.pdf>

ところで、「死体で見つかる」者の中には、親を含め周囲の人々に現場をつかまえられた、または証拠をおさえられた、ペド犯（ペドファイル）が、かなり多数を占める。この者たちは、聖職者も含めて、いずれもかなり残酷に殺されるのが特徴であり、ペド犯に対する一般人の怒りがいかに激しいかを示している。こういう記事は気持ちがよくないので、沢山は訳さないが、紹介したいいくつかの見本だけで十分にわかるであろう。注目すべきは、自警団が各地にできているらしいことである。上流社会ではcultureと呼ばれ、庶民に広がってepidemic（流行）と呼ばれるほどに、その犯罪件数が多いことがわかる。これは、英米やヨーロッパだけでなく、たとえば、インドでは、この犯罪のために死刑が導入され、フィリピンでは、ペド犯一味を、ドゥテルテ大統領自身が射殺したというニュースもある。自警団が存在するのは、官憲がペド犯に非常に甘く、証拠があっても無罪放免することが多いからでもある。

一つ例をあげよう。ある二十歳くらいの女性が、幼女のところに強姦されたが、どうすることもできなかった。それを思い切って、十数年を経た今、その男を警察に訴えた。しかし警察は、証拠がないので無罪放免した。すると待ち構えていたその女性自身が、ボーイフレンドの助けを借りて、その場で男を絞め殺した。

これはペドフィリアというものが、いかに被害者に、深い傷と恨み（トラウマ）を残すものかを証明する。私を含めて、我々はおそらく、この犯罪を、成人に対する暴行や不倫の延長のように考えている。それは全く、おそらく質的に、違うのではないだろうか？ この若い女性は、ボーイフレンドとともに死刑になる可能性がある。にもかかわらず、自分の背負った重苦しさから解放されることを選んだ。これは全く、体験した本人でないといわれないであろう。かりに、私の子や孫にそういう者がいたとしたら、まして私自身がそんな体験をしていたとしたら、こんな文章を書く余裕があるかどうかさえ、わからない。（男児の場合でも全く同じであることは、ハリウッド俳優の活動家コーリー・フェルドマンが実証している。彼は何度も死を考えたと言う。http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171117_2.pdf）

私が妻から聞いた話を紹介しよう。妻がある親しい友人と共有する、もう一人の友人がいる。この人が、いつも何かを抱えたような、暗い感じの人なので、なぜだろうと最初の友人に訊ねると、その秘密がわかっ

た。彼女は、ごく幼少のころその体験をし、その一瞬の、相手の男の顔が、脳裏に焼き付いてどうしても離れないのだそうだ。こういうことは、他人に伝えられることではない。

このような子供の受難が今、世界中で起こっている。これは子供を、ひとりの人格として殺すことである（実際に殺されて、血をすすられる場合もある！）。そしてサタンは、人間とは何かを知らない、我々の弱点を狙って、この恐ろしい犯罪をnormalize、つまり正常であるかのように導き、最終的に、人間から人間らしさを奪おうとしている。これは命を奪うより恐ろしいことである。単に殺すだけなら、生き残った者がまた後を継ぐだろう。しかし、人間の最も神聖で無垢な部分（年齢的なその部分）を破壊するなら、生き残っても死んだと同じである。ちなみに、生贄に効果的な年齢は4、5歳といわれる。

サタンの関与、すなわち憑依ということを考えざるをえない、いくつかの兆候がある。聖職者の場合は確実にそれであろう。普通の市民でも、ある男がペド犯罪を次々に犯し、どうしてもやめることができないので、自分の欲望を抑えるために、生殖器に漂白剤を注ぎ込むという処置をしたが（具体的にどうしたのか不明）、すでに有罪が確定していて間に合わなかった、という記事を読んだ。自分の意志でないものが、働いているのであろう。しかし、この犯罪の異常な蔓延そのものが、自然の状態では考えられないであろう。

最後に、その異常な流行への対策として考えられた、滑稽というべきか、「不道德、本末転倒、不気味」というべきか、信じられない方法があるという記事を紹介しておこう。それは、幼女や少女の人形を作って“処理”させるという、窮余の一策だという。（実物写真の掲載はやめておこう）。考案者はこう言っている：——

「それは、不道德、本末転倒、かつ不気味に見えるかもしれませんが・・・しかし、我々は一つの社会として、子供たちを、性的捕食者たちから、どうやって護ったらいいのですか？」と、Behrendtは訊ねた。「我々は、ペドファイルたちに、今までやってきてあまり成功しなかった、性的衝動を忘れ、抑制するような方法を用いるべきか、それとも、他のセラピーに加えて、本当の子供でなく、CSB医療の方法に関心を向けさせるか、ということです。」

続・考え得る最悪の終末シナリオ：ペドフィリア戦争 人間の進化（神化）を妨げる者たち

集団的アセンション（ascension）と言われているものが、本当に起こるかどうかわからない。しかし、起こるものとして考えると、いくつか謎が解けることがある。これは「次元上昇」と訳されることが多く、鉱物、植物、動物、人間というように次元が上がってきたものが、さらにもう一つ上がる、ということであろう。（この「次元」は数学者の「n次元」というようなものではない。）これは「進化」と言ってもよく、本来の進化とはこのようなもの（意識レベルが次第に上昇していくこと）である。にもかかわらず、ダーウィンの唯物論の進化がこの言葉を占有してしまった。そこで進化と言え、泳ぐひれができる、歩く足ができる、飛ぶ羽ができる、といった形（と機能）の変化だけを指す言葉になってしまった。本来のevolve (evolution)とは、潜在するものの開花ということである。

そこで今、人間の集団的意識レベルの上昇が起ころうとしているときに、これを阻止しようとしている者たちがいる。——こう言えば、カンのいい人々は、瞬時に、現実世界の全体がさっと見通せるであろう。彼らは、我々を知的に奴隷化しようとしている。また道徳的な向上を阻止しようとしている（ソドムとゴモラの世界を、あえてつくり出そうとしている）。我々を、この3次元世界という牢獄に閉じ込め、より高い世界、獄の外の世界があるという事実に気づかせなければ、彼らとしては成功である。人間の進化が起ころうとしているときに、これを食い止めれば、彼らは我々を永久に支配できる。そう考えれば、今起こっていることの多くの謎が解けてくるではないか？

なぜ我々は、何十年も変わらないイラストを使った、ダーウィン進化論を教える生物教科書を、与えられてきたのか？ 不自然ではないか？ なぜ、何の書もないように見える、ホーリスティック医療家を次々に殺すのか？（“牢獄”を脱するきっかけが、そこに含まれているからである。）なぜ彼らは、ロシアのプーチン大統領が指摘するように、「セックスを利用して社会を破壊しようとする」のか？ これは、サタン教に改宗宣言をした法王フランスが認める「我々よりはるかに賢い（したがって従うべき）」サタンと、そのサタンの賢さを受け継いだエリートたちによる、巧妙な手口と考えるべきである。

「セックスを利用して社会を破壊しようとする」とは、日本人でも行われている、オバマ流の“左翼”の方法、人間の性の禁忌をどこまでも軽くし、なし崩しに人間そのものを骨抜き（魂抜き）にすることである。その究極の形が、子供を性の対象とするペドフィリアである。これがサタンのわざであることを示す、いくつかの兆候がある。（私は憑依の定義を知らず、憑依ではないかもしれないが、サタンの影響力ではあるだろう。）まず、その純粋で疑うことを知らない子供を襲うという卑劣さである。この卑劣さは、サタンの顕著な属性であり、人間のものではない。それは、アメリカ深層国家の常套手段である二セ旗作戦や、騙し（プロパガンダ）戦術にも現れている。

しかし、「彼ら」がアセンションを恐れていると仮定すべき、最大の理由は、流行しているのが、単に性暴力でなく、子供に対する性暴力だということである。なぜ子供か？ 子供は性欲を満足するにはできていない。不思議ではないか？ これは、物心がつき、かつ純粋無垢な、いわば最も神に愛される年齢（4, 5歳）の子供ほど、生贄には適するという悪魔の側から考えてみれば、謎は解ける。

ペドフィリアは、前にも言ったように、「人間の犯しうる最大の犯罪」である。サタンの目的は、これら最もアセンションの条件から遠い重罪犯と、神との絆を突如、断ち切られた子供たちが、この地球上に、あふれるようにすることではないだろうか？ すなわち、アセンションを迎えたこの時期、“牢獄”につながれ、光を見失った人間が多ければ多いほど、サタンとその手下どもにとって、好都合なはずである。今起きているこの現象は、明らかにサタンと神との戦いである。これを、悪魔と神の、人類の魂の奪い合いと考えるなら、純粋無垢な子供が、その魂に当たる。この犯罪はどこまで浸透しているのだろうか？ 旧約のソドムとゴモラの逸話に、性的悪徳のはびこるこの町で、正しい人が何人まで残っていれば全体が滅ぼされずに済むか、と神に問うところがある。我々の住む市街地区でも、何パーセントまで子供が不良化すれば、全体が不良化するかという数値がある。正確には覚えていないが、割と低い数値だったと記憶している。

では事態は絶望的か？ 私はそうは思わない。我々をはるかに超える彼らの知能を、破ることはできないのか？ 私はできると思う。まだ戦いは始まったばかりである。まず事実を——それがいかに知りたくない事実でも——知らなければならぬ。知ることなしに戦いには勝てない。今、暗殺のリスクがありながら、事実を暴く勇気のある人々が、急速に増えている。また、おそらく、先日のハリウッドの大物の逮捕がきっかけとなり、性的被害に遭った多くの女性（男性も）が、Me-tooというハッシュタグで結ばれ、情報を交換しているという事実がある。これに続いてChurch-tooという、ペド僧侶被害者のオンラインの集合所もできた。これらは明らかに、一人ではできなかったことを可能にするもので、大きな飛躍である。

問題は、我々を支配する権力者が、悪魔の司祭であり、彼らが我々の子や孫を食物にしても、罪を問われないということである。これを説明するドラマのようなエピソードがある。マックス・クリフォードという英王室に出入りする、名うてのペド犯が、ついに捕まったが、獄中で変死した（明らかに王室内の秘密を漏らす前に殺された）事件である。その獄中のマックスと、看守とのやり取りが面白い。マックスは面白い男で、看守の間で人気があったというが、あるとき看守が、「おい、マックス、お前は王室のことなら何でも知っているというが、いったい、どんなことを知っているのだ？」と聞くと、マックスは「あんたに子供はあるか？ あるなら、この話を聞けば、もう眠れなくなるだろう」と答えた。それきり看守は何も聞かなかつた。この途絶えた会話に、どれほど多くの情報が含まれていることか。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171212.pdf>

ペド犯に対する一般大衆の激しい怒りから判断して、これが上層階級への復讐のうねりとなり、それが今度は権力による大弾圧となって、内乱あるいは戦争につながっていくというシナリオは、十分あり得る。それは阻止しなければならない。双方が逆上するというようなことがあってはならない。それを抑えるのがアセンション仮説である。要するに、我々が良い方へ向かうために、そのきっかけとして、この混乱が起こっていると信ずることである。

私は、集団的アセンション、つまり人間が神に向かって飛躍する進化（神化）が起こると信じている。しかし、たとえ信じなくとも、そのような仮説を立てて考えるだけで、不可解な謎が解け、しかも生きる勇気が湧いてくる。我々は目的をもってこの世に生まれてきた。我々はこのまま死んだとしても、我々の後の世代が、“牢獄”から解放されて、明るい世界へ出ていこう。そして、ペドフィリアの犠牲者として、暗い一生を送ってきた人々は、未来を信じて「すべてを許す」という大きな決断をしたときに、あなたも解放され、我々も解放され、究極的にはサタンそのものも解放されて、去っていくはずである。あなたが原動力となって宇宙を転換させる。そのカギがいま、あなたや我々の手にあると私は信じている。

2018年・年頭にあたって

日本家系研究学会 与那嶺東雲

韓半島は地政学的に中国とロシアの侵略を直接受ける位置にあり、20世紀には大日本帝国も加わって、これら三国とのバランス外交に苦悩してきました。今もその立場は少しも変わっておりません。

このような国に20世紀の初めに文鮮明先生は生まれたのです。なぜ、このような困難な場所から神は摂理を始めなければならなかったのでしょうか。その答えは、2000年前のユダヤ人の国を考えれば答えが分かります。神はイエスキリストを地上に送る前に4000年も準備をされてイスラエル、即ちユダヤ人の国を建てられました。当時のユダヤはローマ帝国の属国であり、周りには多くのより大きな民族に囲まれていました。1920年代の韓国とユダヤは全てがそっくりなのです。20世紀初頭の韓国ではローマに擬されるのが大日本帝国でした。

1940年代、文先生は第一次摂理としてキリスト教の布教に情熱を捧げられました。韓国のキリスト教にはイエスの再臨を望む声は血の叫びの如く湧きあがっておりました。特に日本の圧政下にあってその願いは最高に燃え上がって再臨の啓示を受ける者が多くいたのです。それこそが神が準備した環境でした。

しかし、韓国は神の祝福を受けることはできませんでした。多くのキリスト教の指導者達は自らがメシアと錯覚したからです。雨後のタケノコのようにメシアと名乗る者が溢れる韓国の地では文先生もそのような者の一人としか捉えられなかったのです。

失敗した民族は滅びるか或いは必ず二つに分かれるのが神の法則です。その法則に従い、1948年善の韓国と悪の北朝鮮に分かれ、互いに予想もしない300万人の犠牲を生みだした朝鮮戦争へと半島は突き進んだのです。兄弟が、親子が親族が互いに殺し合う姿を誰が予想したのでしょうか。人類歴史にもそのような悲惨な戦争は存在しません。

今、北と南に分かれた韓民族が2018年に建国70年を迎えることとなります。ロシア、中国は虎視眈眈と韓半島を手にいれようとし、アメリカ、日本はその毒牙から自由陣営の韓民族を守ろうと必死に努力してきました。

韓国の大統領はくしくも、文一族です。それも北の出身です。世界で多くの国が滅びましたが、国を作る者と滅ぼす者は実は同じ血を分けた者が担当する場合があります。文先生が御存命のころは韓国は昇竜のような勢いがあり、オリンピックを大成功に成し遂げ、サムソンやヒュンダイなど進め進めと驀進することが出来ました。しかし、今、実にみすぼらしい国運になりつつあります。北だけが滅びるのではなく、南も滅びる可能性が高いのです。その理由は神の祝福が去るのが目に見えるからです。

文先生は中国が21世紀の最大の危機をもたらすと喝破しておられました。韓国と日本を救うのは環太平洋連合の運動であり日韓トンネルの建設が必要だと具体案を示してくださいました。日本・韓国の宥和は世界平和の欠かせない基台となると考えておられたのです。

しかし、今、中国寄りの文大統領の政権は見事なまでに日韓を離間させる方向で推移しております。あと一押しすれば韓国は中国の支配化に屈すると中国首脳は見ています。その引き金になるのが日本政府の反韓政策です。その日本の姿勢に後押しされるように韓国は親中国へと完全に移行するでしょう。「日本のせいであんなに」は韓国の国内世論としては見事な理由づけになります。それを中国は待っています。天の運勢は完全に韓国と日本から去りつつあります。二つの国の運命は別々ではありません。共に生きるか共に滅びるか正に2018年は両国の運命の分かれ目となる年となるでしょう。

錦山 文潤國先生の詩

崔公孝行

최공 효행



孝奉二親學古人
行年七十彩衣新
戲作嬰兒資喜悅
誠供甘旨養心身
深情但願長生日
愉色宛如不老春
每月朔望親省墓
固知倬行出天真

효봉이친학고인
행년칠십채의신
희작영아자희열
성공감지양심신
심정단원장생일
유색완여불로춘
매월삭망친성묘
고지탁행출천진



최공의 효도 효행

아버이 두 어른에게 효도할 제 옛사람을 본 받았으니
노래자가 나이 칠십에 아름다운 문채 나는 색동옷 입고
갓난 아기처럼 재롱을 피우고 부모님의 마음을 기쁘게 해드린 것과 같이
최공도 정성껏 좋은 음식 공양하고 또 양친의 마음을 즐겁게 해 드렸으며
진정 깊은 속마음으로 오직 부모님 오래 오래 수명 장수하시기를 축원했고
즐거운 표정과 공손한 태도로 부모님 늙지 않고 항상 봄 같기를 원했노라
부모님 돌아가신 뒤에는 매달 초하루와 보름날에 친히 성묘 하셨으니
최공의 높은 효도가 바로 하늘의 참된 효성에서 나온 것임을 알겠노라.

崔公 孝道を行く

二親に孝の道を 行う先人を見て学ぶ
歳七十を重ねて 彩やかなる新衣を着す
幼児が如く戯れ 悦に入りて喜ばん
誠を尽くし甘食を 供し心身を養う
深き情のあればただ 長生たるを願いて
また愉しからずや 春の如く老いたるを知らず
望(みちる)月の朔(はじ)めに 親の墓に省(かえ)りぬ
固(かた)くになに孝道の行くを知らざるや 天の真より出でたるものなりしを

「海洋時代の為に」

世界で初めて大西洋を横断した蒸気船は？

FPU兵庫 渉外部長 金豊鎬

最初に大西洋を横断したのは、北欧のバイキングたちである。その後、1492年にコロンブスが帆船で横断する。以降、帆船で大西洋を横断する時代がつついたが、18世紀末に蒸気船が構想されるようになると、やがては蒸気船で大西洋を横断する時代が来ると考えられるようになった。

1807年、フルトンによって蒸気船が実用化されるが、当時の蒸気船の問題点は航続距離の短さ。そのため、1819年に世界で初めて大西洋を横断した蒸気船、アメリカの「サバンナ」は、蒸気単独ではなく、帆の力を借りて海を渡った。

サバンナは、アメリカから出発し、イギリスのリバプールに29日かけて到着したのだが、その航海のうち、蒸気力をつかったのは、わずか80時間。あとは風の力に頼りっぱなしだったのだが、それでも石炭はほぼ空になっていたという。

蒸気力のみで初めて大西洋を横断したのは、1833年に建造され、同年に航海したイギリスの「シリウス」。その時期、大西洋航路では、汽船会社のあいだで横断一番乗りをめぐる競走がおこなわれていた。「シリウス」と「グレート・ウェスタン」が、数日ずれて、ともにロンドンを出航し、ニューヨークにどちらが先に着くかを競った。平均速度8.5ノットの「シリウス」が16.5日かけて先着、数時間遅れて「グレート・ウェスタン」もニューヨークに入港した。「グレート・ウェスタン」の平均速度は9.3ノットと「シリウス」を上回り、「シリウス」よりも短い13.5日で到着した。

「シリウス」と「グレート・ウェスタン」の競走は欧米世界の注目となり、蒸気船による大西洋横断に力が注がれるようになる。その努力により、1840年、大西洋に汽船による定期航路が開かれた。

多くの犠牲を出した初の世界一周航海によって、マゼラン艦隊は地球が丸いことを実証してみせたのだ。された。

『千字文』と韓国語〔34-2〕 曹小煥

白	駒	食	場
흰 백	망아지 구	먹을 식	마당 장
はく	く	しょく	じょう
しろ	こま・うま	はむ・たべる	ば・はたけ

흰망아지, 마당에서 먹으니 어진사람의

망아지

마당에 풀먹는 것을 아름답게 여여김이라
白駒(はく、しろうま)は、畑で(草を)食べる。賢人の駒(うま)が場(にわ)で草をたべるのは、美しく見えるのである。

意味は「しろきこまは、にわにはむ」…(白い馬は畑で食す)の簡単な文であるが、『毛詩』

(小雅、白駒)に「皎々(白い)たる白駒、我が場(にわ)の苗(なえ)を食(は)む」とあるが、これのことである。

また『詩経』の注に「畑(場)は駒の留(とど)まる所である」として、春秋(戦国時代)の時、賢人は駒(うま)に乗ってやってきて、王に謀(はかりごと)を告げる。その合間に駒はやってくると、畑の中で餌(えさ)を食べる。それは恐らく駒の住むべきところなのであろう。

したがって、此の度の『千字文』の33行と34行の8文字を揃えると、次の如き文章となる。

鳴鳳在樹・白駒食場=鳴ける鳳は樹に在り、白き駒は場(畑)で食す、である。これは人間社会にも言えることで、人は自分の行くべき道と、場所を選ぶことが肝要とされる教訓でもあろう。

機関紙 月刊『平和統一 NEWS』

<編集委員会>

委員長 文聖純
副委員長 曹小煥
編集局長 福田秀樹
編集委員 韓静旼
編集委員 金豊鎬
編集委員 廣瀬純子



COREA

平和統一聯合
Federation for Peace and Unification

活動内容

12月07日 定例役員会
12月08日 韓国語教室
12月16日 忘年会
12月22日 韓国語教室

行事案内

1月09日 定例役員会
1月12日 韓国語教室
1月26日 韓国語教室

編集後記

■2018年の初冬に近隣の里山の小高い丘の頂上に登ってみた。東の空が赤く白く輝きだした。初日の出としての太陽が顔をのぞかせる一瞬である。2018年が長いような短いような、どのような一年になるのか分からないのだが、とにかくスタートした。と同時に本紙である『月刊・平和統一 NEWS』の113号のスタートでもある。人生の困難に直面した時は「在日」とは何かを知り、問う為に何かにつけて、山登りに心がけて来た。自然と向き合っては「細く長く継続！」を実行して来た。そして本紙が多くの人々に読まれることを願って校正に努力を重ね『月刊・平和統一 NEWS』の良き出来栄を願った。思えば真面目で特異な月刊紙であるだけに、ひたすら記録することを使命として書き続け、今月号のように113号に迄成長し続け発刊に至っているのである。本紙の内容は、まるで韓(朝鮮)半島と日本列島の古代から近現代迄の歴史を俯瞰しているが如くで、まさしく、漢字や仏教、政治制度、食生活までもが渡来人の「在日」の移動とともに伝来し、地元で独自の工夫が加えられて広まったことが証明されていると言える。決して文学性の高さや、すぐれた作品類ではないが2018年のFPU兵庫の『月刊・平和統一 NEWS』は1人でも多くの「在日」と日、韓、朝の若い人々に是非勧めたい、在日の和合と平和的統一の為の月刊誌である。(曹)

■2018年を迎えて、新しい年のFPU兵庫の名前を最初に確認できるのが、ホームページ上の『平和統一 NEWS』です。13年間様々な活動をしてきました。その内容を全てホームページ及びホームページ上の『平和統一 NEWS』に公開してあります。知ってほしい情報という意味では素晴らしいシステムだと思います。デジタル時代の象徴ともいえるべきインターネット。一瞬のうちに全世界に広まる情報。それが本当に良いのか悪いのか。思うに、知らなくてもいいものは知らなくていいと思います。情報過多の時代。情報に振り回されることなく、自分の周りの身近な目にする現実の世界にもっと目を向けて、周りの人々をよく理解し、まずは、近隣社会が、支え合いながら楽しく生活できるようになればと思います。(樹)

投稿記事募集

交流の広場への投稿記事を募集しています。

FAX.078-367-4323

E-mail: hyougo-2017@fpuhg.main.jp